

転校生なギャルJKはダークエルフ！？ 1章

クアトロ

■作品概要

△サークル△

癒し庵もち猫（シナリオ／効果音／イラスト／音楽編集：クトアトロ）

△ジャンル／年齢指定△

バイノーラル音声作品／全年齢

△作品ボリューム△

80m △台詞文字数8,261文字

△舞△

現代／教室／ナナリーの部屋

■登場人物

△ヒロイン△

名前 △ナナリー（見た田17歳／実年齢115歳）

人物 △聴き手のクラスに転校してやった謎のダークエルフ

ノリがよく氣がちな性格／見た田が派手で所謂ギャル

聴き手とは転校田の朝会つてこる

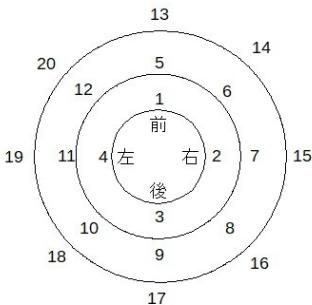
席は聴き手の隣り／闇の精靈の加護を得ている

趣味／特技：カラオケ／自撮り／写真加工アプロ／闇魔法

△聴き手△

高校生 △ゲーム好きの男子（17歳）

△台詞位置の指定図△



図はマイクとの距離を示しています
1~4は30cm
5~12は50cm
13~20は1mを想定しています
距離が取れない場合、
こいつらの音量調整等で対応します

1：噂の転校生（聴き手の教室／朝）

（教室のドアを開閉する音）

（ナナリーの足音）

（ナナリーがチョークで黒板に名前を書く音）

（位置14／有聲音）

（氣だるいつに）

どつもー。

ナナリーでーす。

今日からよろしくー。

あー、はーい、あたーの席ですね。

りょうかーい。

（1）まで氣だるいつに）

（ナナリーの足音）

（位置5／有聲音／小声）

あれ？

君、今朝の子…？

へえー、まさか一緒にクラスだったとはね。

こんな偶然もあるんだ。

まあこうなつたのもなにかの縁つしょ♪

あ、そうだ。

ウチの事、ナナつちつて呼んでくれていいかんねー♪

んだよー、ノリわりいなー。

隣りの席なんだからや、仲良くなつぜー♪
なつ？

（1）で先生に注意される

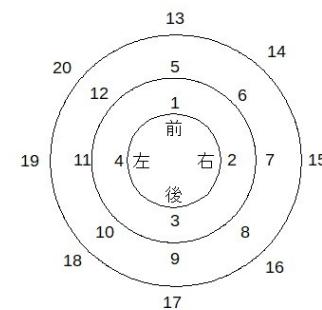
（位置5でマイクと反対を向きながら／有聲音）

はーい、席に着きまーす。

（位置5／有聲音／小声）

つて事でー、よひじく♪

（ナナリーの足音）



(ナナリーが椅子に座る音)

2：転校生は人気者（聞き手の教室）—限日が終わった後の休憩時間

（クラスメイトにナナリーが囲まれている状況）

（位置7で14の方を向きながら／有聲音）

ちよ、待てって…。

そんなに大勢で質問されたら、答えらんないってば…。

そんなに転校生が珍しいか？

そつか、そうなんだ。

あ、言つとくけど、耳はぜつて一触る感じやねえぞ？

触つたら許さねえから。

おう、分かりやイイんだよ。

あー、待て待て。

だから一斉に質問してくんなりてば…。

（位置7／有聲音／小声）

なあ、君…つ！

そう、君だよつ！

質問攻めにされてんだ…。

ちよつと助けてくんねえ…？

（聞き手が囲みを追つ払う）

（位置5／有聲音／小声）

は…。

助かつたわ…。

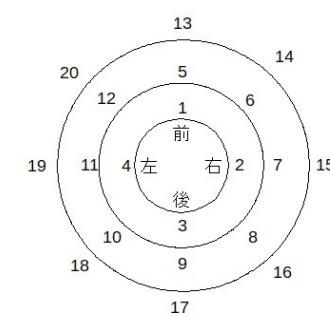
サンキュー♪

つたぐよー、転校生が珍しいつーのは分かるけど…、ナナリはああいつの#扭曲…。
あ、意外だった？

まーねー。

見た目がこんなだからさ、普通だったら他のヤツらは寄つて来ねえはずなんだけど…。
このクラスはモノ好きが多いんだな♪

君は？



ナナつちみたいな、所謂ギャルは嫌い?は?

それどいろじやない?

何が?

ダーク…エルフっぽい?

うつそ……。

(位置4／有声音／かなり小声)

君…、ナナつちの事、分かるの…?マジか…。

やつべえじやん…。

え、じゃあ髪の色、何色に見えてる…?

銀色…。

じゃ、じゃあ肌は…?

褐色…。

おいおいおい…、ガチでやべえじやんか…。え?

なんでつて…。

なんでもなにも、君に幻覚作用が効いてないからじやんつー

ああ…、幻覚つつーのはほつ…、えつーつと…、つまりアレだ…。

ああもういいや…。

幻覚作用は、ナナつちの闇（やみ）魔力の効果なんだけど…、何故か君には効いてねえ…、っぽい…。

何で効いてねえのか、ナナつちにもよく分かんねー。

けど見た目がダークエルフに見えてるんなら、それが本来のナナつちの姿。

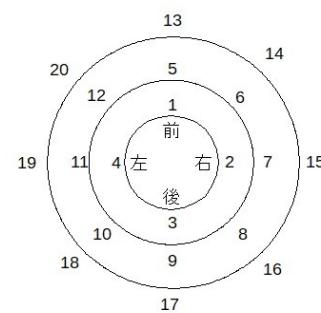
(位置4から5に移動しながら／有声音／小声)

しつかし参ったなー…。

(位置5／有声音／小声)

あ、もしかして、君も魔力が使えるとか…?は?

魔力が使えるのは三十歳になつてから…?



なんの話だよ…。

え、もしかして、この世界の人間って、歳を重ねれば魔法使えないよつになれるのか…?
例え?

なんだよ、ビビりせんなんよ…。

でー?

なーんで君にはナナつちの魔法が効かないのか、
原因を突き止めないといけないんだけど?

そりやそりやんつ。

ナナつちの闇魔法って、結構強力なんだかんね?
それなのに効いてないっていうのは困る…。

ううん、大問題。

なんでって…。

あのさあ…、君って今、凄く冷静に会話してるけど、ナナつち、ダークエルフだぞ?
そこの所、忘れてない?

ゲームで…、見慣れてる…?

(納得した様に) ああ、そういう事…。

つて、そりじゃねーよつー

いぐら見慣れてるからつて、目の前に本物のダークエルフが居るんだぞつ?
もうかよつと慌てるつーか…、怯えるつーか…、あつてもよくな?

は?

かわ…い…?

(絶句) なつ…。

ばつ…、バツカジやねーのつ?

君は人間、ナナつちはダークエルフ…。

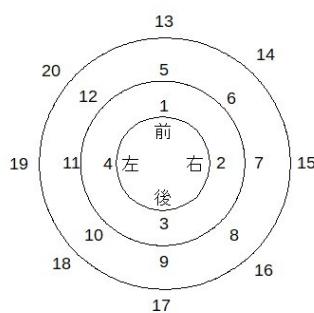
つまり異種族なんだかんなー?

あー、そうか…。

平和な人間は知らないのか…。

えーっと、簡単に言うと、現代において、異種族との接触は禁忌つて事。

要するに、ナナつちの正体がバレた今、すつげーやべえ状況下にあるつてワケ…。
ふーん、じゃねえよつー…



なにのほほんとしへんの?

えいしょり…、長(おや)にバレたり、種族間で戦争…、何て事も有り得つや…。

わうなつたうや、人類は滅ぶかも知んなーんだからな?

大丈夫…?

なんじ語ふ切れるのや?

黙つてゐ…?

あのヤ…、やつ語られて、はいそうですかつ、とは行かない案件なの、分かつてね?

ああ、もつ時間か…。

(位置5から2へ移動しながら)
もつれんれん休憩が終わるな…。

(位置2／有声音／かなり小声)

「Jの話はあと。

んで、教室で語していい内容じやねーから、放課後ナナつちの家(じや)に来な。今朝通学路で会つたつて事は、多分家も近いはず。

ああ、大丈夫。

家に招いても、手出しそたりしないから。

そう、布告なしに手を出したりしたう、それ「J」超大問題になつかる…。
んじやあそ「J」事で。

あ、ナナつちがダークエルフだつて、ゼйтニー語へんじやねえや。

わつき大丈夫つて語つたよな?

おひ、約束だぞつ!

3：転校生は耳が弱い(ナナリーの部屋／放課後の夕方)

(位置13／有声音)

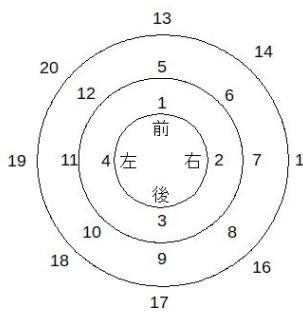
なーにそんにキヨロキヨロしへんのや?

はあ?

部屋が現代的?

(ため息) はあ…。

あのな、こいつ何でも、ゲームに影響され過激だい。



「」は現代で、ゲームの中じゃないの。

(位置13で20の方向を向きながら／有聲音)

パソコンもあるし、

(位置13で14の方向を向きながら／有聲音)

テレビもある。

(ナナリーの足音)

(位置7／有聲音)

それにほり、ヒトコソもつー…

これヤー、アレルギー物質をやつづけてくれるんだよなー♪

へ?

あー…、ナナつち、花粉症持ちなんだわ…。

は?

うつせーなつ。

ダークエルフでもなるときやなんのつ。

なつちやつたもんは仕方ねーだろつ。

そうだよつ!

(恥ずかしそうに) 花粉の時期は…、医者に花粉症の薬もうつてた…。

(位置7から5へ移動しながら／有聲音)

あ、もしかして君ヤ、ナナつちの事、ちよつとバカにしてね?

(位置5／有聲音)

そういうのムカツくんだけど?.

ホントか?

もうバカにしない?

ふんつ、まあいいや…。

で、君にナナつちの闇魔法が効かない件についてなんだけど。

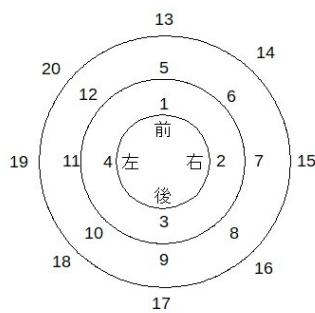
何か心当たりはないワケ?

そつか…、簡単に思い浮かぶなら苦労はしねえよな…。

そういうナナつちも、サッパリ分かんねー…。

だつてさ、脆弱な人類に、ダークエルフの闇魔法が効かないなんて事例、過去にないもん。

(ナナリーの足音)



(独り言)

(位置5から11へ移動しながら／有声音／小声)

うーん…、参つたな…。

(位置11／有声音／小声)

「の事、長（おや）に相談した方がいいか…？」

(位置11から7へ移動しながら／有声音／小声)

いや…、でも待てよ…?

(位置7／有声音／小声)

「の謎を突き止める事が出来たら、もしかすつと長（おや）に認められるんじゃねーか…？」

そうなりや、「の人间界での生活にも終止符を打てる…。

(位置11まで独り言)

（位置7／有声音）

ああ、わりいわりい。

あー、長（おや）つてのは、その名の通り、ダークエルフの長（おや）。

御年六百八十一（682）歳。

ダークエルフ族の最年長者（さいねんじょうしゃ）だよ。

でな？

ナナつちは…、そのー…、ダークエルフの森を追放されたんだわ…。

あ、ちょっと待つた。

理由は聞くな…。

思い出しだけでも『気分悪くなつから…』

おう、察しがよくて助かる…。

で、森を追放されて、人间界へ降り立つたつてワケ。

どうやつて來たか？

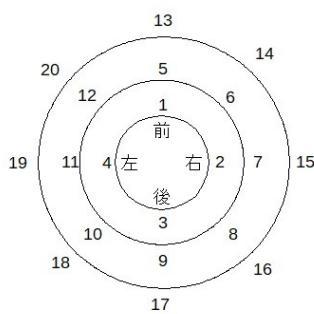
そんなの『う訳ねーじやんつ。

言つたら人間や、それを耳にした他の種族が攻めてくつかもしんねーだろ？

いくら追放されたとは『え、裏切る訳にはいかねーの。

だから方法は『え』。

イイな。



オッケー。

話しへ戻すぞ。

(位置4から5へ移動しながら／有聲音)
要するに、君に聞魔法が効かない理由。

(位置5／有聲音)

その謎を解けば、森に戻れるんじやねーかつて話。
だからこそ、調査つづーか、研究つづーか、それに協力していくねーかな?

(じよと即答される)

(素つ氣なく) そつか、あんがと。
え?

マジでここのか?

(位置5から2へ移動しながら／有聲音／小声)

君さ…、魔法が効かない事に心当たりはないって言つたじやん?

(位置2／有聲音／かなり小声)

それ…、ガチ?

ホントかどうか怪しいな?

いぐう何でも冷静す。

(位置2から4へゆつぐり移動しながら／有聲音／小声)

その冷静さにJIN、何か裏があるんじやねーかつて睨んでんだけど?

(位置4／有聲音／小声)

ふーん。

やつぱり分かんない…、か…。

それがガチなのか、言えないのか、言わないだけなのか分かんねーけど、
協力はしてくれんだな?

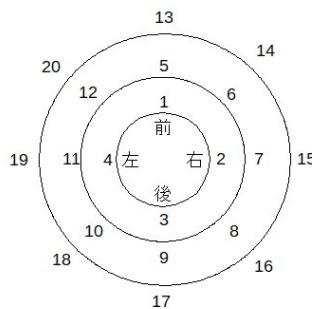
(位置4から1に移動しながら／有聲音／かなり小声)

そういう事なー…、早速身体から調べてみつか
ほーら、万歳しな?

(身体を服の上から触られる音)

ふーん…、意外と筋肉付いてんね…。

つて、今は関係ねーか…。



(位置1から2へゆっくり移動しながら／有声音／かなり小声)
えーと…、ふむ…、いやこれは特に『』なる様な所はなし…。

(位置2／有声音／かなり小声)

あ、「」…。

ぐすぐたくても暴れちゃダメじゃん。

協力してくれねーたらー?

んじやあジツとこでな。

直ぐ終わっかいやん。

(位置2から4へゆっくり移動しながら／有声音／かなり小声)

わー…、もつ少しの辛抱、辛抱♪

(位置4／有声音／かなり小声)

最後に…。

えーと…。

ダメかー…。

何もなし。

(位置4から1へ移動しながら／有声音／かなり小声)

まあそつ簡単に分かつたら苦労しないわな…。

(位置1／有声音／かなり小声)

へ?

何?

協力した対価…?

は?

何言つてんの?

そんなの聞いてねえし。

そりや、対価を払わないとも言つてねえけど…。

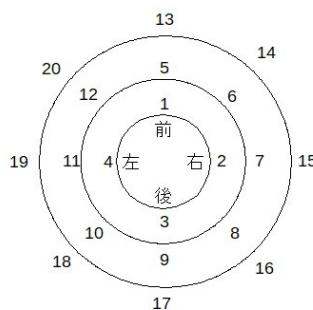
ちくしょ…、一杯食わされた気分だわ…。

つたく仕方ねーな。

何がイイんだ?

おう、ジツとしてればイイんだな?

(ナナリーの耳を触る顔)



(くすぐったい演技)

ひやつー

あははつー

ちよつ、待つ…。

耳はダメ…。

んんつ…

くすぐつた…、あはつ…

待て…、待てつて！

ストーリップー

(くすぐったい演技)

(息を整える) はあ…、はあ…。

君さ…、耳が弱いって分かってて触つたつしょ…。
やーつぱり…。

あのね、君…。

この状況、分かってる？

君は今、追放された身とは言ふ、ダークエルフの家（いえ）に居るの。
つまり、君が無事に家に帰れるかどうかは、ナナつちにかかってんだかんね？
そう、余り舐めた事すと、流石にただでは済まらない。
(トーンを落として) 人間、ときが…。

(また耳を触られてくすぐったい演技)

ひやつー！

分かつた…、あはつ…

訂正…、ふふつ…

訂正する…、から…、待つ…

(くすぐったい演技)

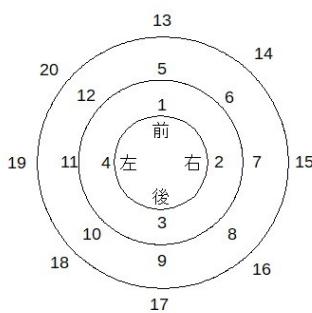
(息を整える) はあ…、はあ…。

もうつー！

君だけズルいつー！

へ？

同じ事をしただけ？



あ…、そつか…。

君もぐすぐったがつてた…。
でもヤ、何かヤダ…。

負けた気がする…。

てか負けてる…、人間に…。

人間に「んな惨めな目に遭わされたのは…、初めて…。
悔しい…。

あ、そうだ。

別にダークエルフだけが、耳が弱いってワケじゃなくね?

(ナナリーに耳を触られる)

やーつぱりつ♪

君も弱いんじやん♪

だつて、身をよじりせてるんだもん♪

分つかりやすい♪

ほれ…。

ほれほれ…。

ふふつ♪

「うなつちやうと君も可愛いじやん♪

(一端耳から手を離す)

へ?

もつと続けて欲しいのか?

イイけど…。

(もう一度ナナリーに耳を触られる)

あれ?

なんか「褒美的な事になつてね?

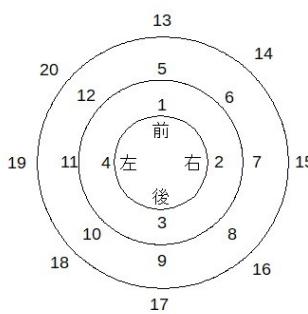
違う?

ホントか?

まあいいや。

なーんか楽しくなつてきたし♪

ほーれ…。



ほーれ…。

あはい♪

そんなにぐすぐしたじのか?

え?

氣持か…イイ…?

はあ…?

キモ…。

わうこの事なう!! (や) エハナビハ。

嘘つて何だよ…。

つたぐ…。

ぐすぐつたじとか氣持かイイとかはもわびつでもここや。

見てるの樂しへ。

つて事でー、續けねー。

おりや…。

おーりや…。

ほーれ…。

ほーれ…。

あはい♪

いーいか?

そつかー、いーのがイイんだな?

闇魔法が効かねえ原因はまだ分かんねえけど、弱点は見つけたぞつと♪

セーわ…。

セーわ…。

いーしょ…。

いーしょ…。

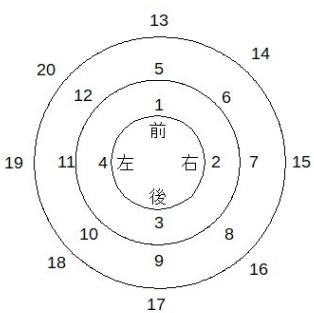
あつ、わつだ♪

いわい♪

ナナつち、イイ事思い付いちやつたー♪

(ハンドクリームを取り出す音)

えーつと…。



あ、あつたあつた。

これ使つたら七、もつと氣持ちイイんじゃね?
ナナつちがいつも使つてゐる、ハンドクリーム♪
乙女の必需品♪

あ、今「乙女」って言葉で笑わなかつた?
ひでーなー。

ナナつちだつて女子なんだかんなつ。

肌の手入れくらうするつづーの。

んじやあこれでやつてみんぞ♪

(ハンドクリームを手に取り伸ばす音)

いい香りっしょ♪

桃と薔薇の香りなんだよねー♪

この香りが好きで、買つてみたんだー。

つてなワケで、いくだー♪

ほれつ♪

(耳をマッサージする音)

ど~?

そつか氣持ちイイか…。

つてかさ、仕返しするつもつが、完全に『褒美』になつてゐるな?
ん?

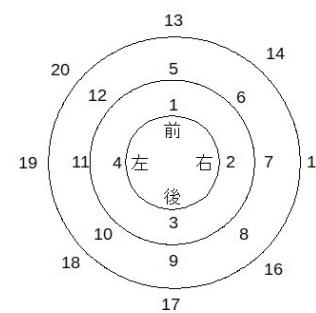
あー、確かに…。

ナナつちが手を止(と)めればイイだけつづーのは、間違つてねえ…。
でもさ、君が氣持つよせんせうな顔してつから、なんだか止(や)めらんないトト。
なんだよ。

ギャルのぐせにつ。

あー、それ結構傷付く言い方だぞ。
つたりめーじゃん。

ギャルだからーとか、ダークエルフだからーとか、そつこつのを偏見つて言つんだが。
まあダークエルフつてのは、非日常過ぎて、ひょつと違つかもだけど…。
え?



ゲームで見慣れてる?

それヤー、学校でも言つてたよな。

だからって、そんなに冷静で居られるの、ちょっと怖いんだけど? うーん、例えばさ、異種族…、「」はエルフ族つて事にしようか。

ナナつちの田の前にエルフが居たら、一触即発だぞ?

そう。

ダークエルフ族とエルフ族は、相容れない種族なワケ。

その辺の事はゲームでも出てくんじゃねえの?

だろ?

で、そなつたら…、そだな、魔法で決闘…、何て事になるかも。見てみたい?

(ため息) はあ…。

あのな、ダークエルフの闇魔法は、幻覚作用を起すだけじゃねえんだぞ? 建物の一つや二つ、簡単に吹き飛ばせるんだかんな?

エルフだつてそうだ。

認めたくねえけど、あいつらの風魔法は、結構強力なの。それがぶつかり合つてみろ。

下手したら、街ごと消滅…、何て事に成りかねねえ…。どうだ。

やべえつしょ。

つて、何で田をキラキラせんのヤ。

つたく、分かつてねえな…。

君の家も、消し飛ぶかもしんねーって話、してんだけど? それでも見てみたいか?

うん…、つて…。

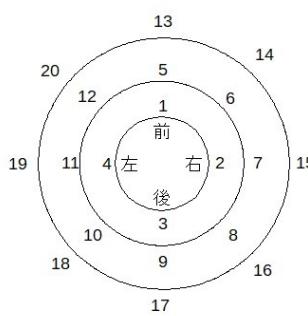
呆れた…。

君、ハツキリ言つて、普通じゃない。

異常。

街一個で済めばいいけど、下手したら種族間の戦争に…。

(閃いたといふ感じで) はつ!



そつか…。

君のそういう所に、闇魔法が効かない理由があんのかも。
なにをぽかんとしてんのさ。

君のそういう人間性のなさ…。

つまり、心の根っこが死んでるヤツだからなのかも、って言つてんの。
成程ねー。

少し分かってきたかも。

真相に一歩近付いた感じ。

でも納得いかねー。

だつてナナっちの魔力に人間」ときが耐えられるなんて、
相当「じゅせてるつて事じゃん?

君、心の闇…、深そう…。

つと、ハンドクリームが乾いてきちまつたな。
んじやあ終わるっか。

おう、どういたしまして。

ん?

なんで礼を言われてんだ?

なんかモニヨるなー。

まあいつか…。

4：転校生は世話焼き（ナナリーの部屋／放課後の夕方） (位置5／有聲音／小声)

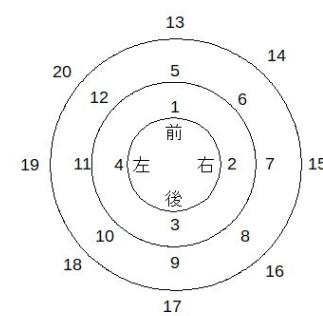
あー、じゅじゅ。

そんな指で耳ほじくつたらダメだろ。

なんでつて…。

爪で皮膚に傷が付いたら、炎症起こしたりするんだが?
なに、どうした?

マツサージした効果で耳の中が痒い…?
あー、分かるわ。



うーん…、仕方ねえな。

よつしゃ、耳かきしてやるよ。

何ビックリしてこのヤ。

あ、ナナつちの優しさに、ともぬこちやつた…、とか?

へへ。

違う?

じゃあなんだよ。

うん…。

うんうん…。

あのな、いくら耳が弱いとはいって、ダークエルフだつて耳かきすんだぞ?

その代わり、人間が使つてゐる様な耳かき棒は刺激が強すぎるからヤ、これ。

綿棒♪

これを使つてんだよねー♪

(威圧) あ?

今なんつた?

ダークエルフのくせに耳掃除?

そつ言わなかつたか?

やつぱり…。

あのな…、ナナつちが手出ししないからつて、調子に乗り過ヤ。

まあ今それはいいや。

ほら、掃除してやつから、横になりな?

どひつて、どひつてだよ。

膝枕。

おーい、頭の上に疑問符が浮かんでんぞー。

もしかして、恥ずかしい…、とか?

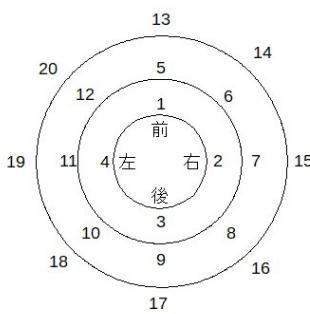
え、むしろ嬉しい…?

なんだそれ。

つまんねえ。

もついいや。

せつせつと横になりな?



(膝に寝転がる音)

(位置2／有声音／かなり小声)

なあ君や。

無事に家へ帰りたいなら、あんまりふざけた事、畠わない方がいいわ。

なんだよ。

なにか言いたいの? ジヤン。

ナナつちならそんな事しない…?

なつ…。

なんで言い切れるのヤハ。

根は…、優しい…?

バツカツ…。

そんなワケねえじゃんつ。

ダークエルフだぞ?

こんな人間界…。

下等な種族の世界で、優しくなんか見せるワケねえだろつ。

ナナつちはな、これでも同年代では魔力が強い方なんだかんな?

へ?

何歳か?

あ、乙女にそういう事、聞いたやう?

なんてね。

まあ今更って感じだし、教えてやつけど、笑うなよ?

今年で百十五（115）歳…。

あれ?

笑わないんだ。

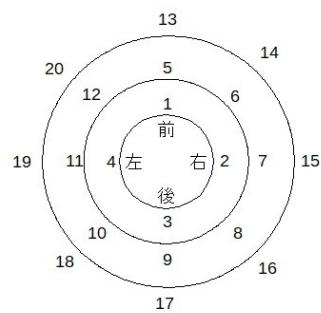
ゲームで慣れてる…?

あのヤ…、今朝からずっと、ゲーム、ゲームって…、君、どんだけ好きなんだよ…。

まあ人間と歳の取り方はちがえけど、見た目はほり、この通り。

大体十七歳って感じだろ? な?

とは言つても、闇魔法の幻覚作用で、見た目はどうともなるんだけどな…。



でもヤ、やっぱり人間界に溶け込むなら、

見た田ぐらじ回じ年代の子達と過ゞしたいじゃん?

そつ。

あー…、でも一つ問題があつてヤ。

ナナつち、読む事と話す事は出来るんだけど、まだ書く事が出来なくて…。
んで、今心配なのが、字が書けなくて、クラスメイトに怪しまれるんじゃねーかつて事。
まあ見た目がこんなギャルだからさ、キヤウで押し通せつかなつとも思つてんだけど。
でも流石に平仮名も満足に書けねえのはマズいつしょ。

でしょ?

だから困つてゐつてワケ。

(血漫氣に)

まあ?

こいつ見えてもナナつち頭いいから?

覚えようと思えば直ぐなんだけど?

(ーーJまで血漫氣に)

意外つてなんだよ…。

言つたる?

魔力が強いって。

闇魔法の中には、異種族の言語を交換出来るモノもあつてね。

そつ。

だつてヤ、いつ異種族との争いに巻き込まれるか分かんねえじゃん。

そうなつた時のために、言語を理解する術（すべ）は欠かせないつてワケ。

そんなワケで、人間界の…、ーーJ、日本つていう国らしいな?

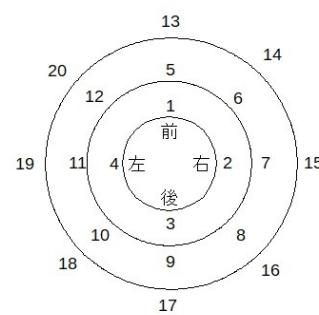
日本語も一週間で話せるようになつたし、読める様になつたんだー。
どう?

すげえつしょ。

ゲームなら最初から言葉が通じる…?

あのな…、いい加減ゲームから離れるよ…。

ここはゲームみたいな仮想空間じゃなくて、現実、リアルなの。
へ?



書く事…?

そりだよ。

さつさ書いた通り…、書けねえ…。

んだよ。

バカにしてんのか?

は?

教えて…くれぬ…?

君が…?

へえ…、イイとこあんじやん…。

あ、そりだな。

返事…、返事…。

あー…、えーっと…、その…、お願いします…。

(咳く様に) なんだよ…、急に優しくなつて…、ズルいじやん…。

んじやあせ、早速」の後、教えてくんない?

取り敢えず…、そりだな…、ナナつちの名前から。

そう、上手く書ける様になりたいつ。

オッケー、じゃあようじへ頼むわ。

おっしゃ、じつはお終い。

最後にふーっと反対側やねー。

(耳ふー) ふー…。

もう一回…。

(耳ふー) ふー…、ふー…。

おまけでもう一回だ♪

(耳ふー) ふつふつふつー…。

オッケー。

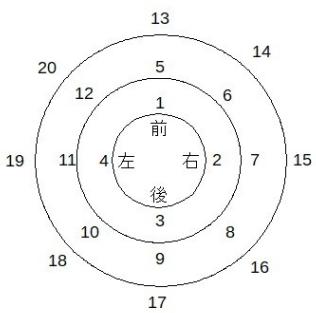
次は反対やつから、寝返りしな♪

(寝返りの音)

(位置4／有聲音／かなり小声)

おーし、じつかもやつてこぐれー。

そつて言えば、ナナつちの書く文字、今朝の白山紹介で見たつしょ?



そう。

丁寧に書いて、あれが限界…。

正直恥ずかしいつつーか、慘めつつーか…。
うん…、だからしつかり勉強したい…。

おう、ようしつかり頼むわ…。

んだよー」の怨氣…。

氣マズいじやん…。

なんつーか、変な感じ…。

は?

(慌てた様に)

バ、バツカじやねーのつ?

人間なんかに恋するわけねーだろつ!

ふじや…、ふざけんなよつー

(ー)まで慌てた様に

はあ?

噛んでねえし?

噛んでませんー、知りませんー。

あ、いいの?

あんまり突つかかってくつと、綿棒がつ指すよ~

へ?

お願ひしますつて…。

ドマかよ…。

はあ?

ご褒美…?

マージ、キモい…。

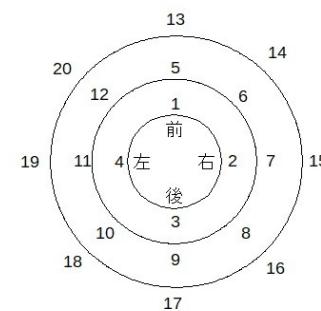
ただキモいだけじゃねえ。

ドン引きする程だわ…。

もうさー、耳掃除止(や)めてもいいか?

だつてさ、君、怖いだもん。

そもそも、闇魔法が効かない事自体、あり得ないんだかんな?



その上、ナナつちが、人間^{じんげん}よりも恐怖する…、だなんて、相当だね…。

それが今、ナナつちの膝の上に居ると思つと、胸騒ぎがするわ…。

だから恋じやねえつつってんだろつ！

(嘆く様に) もー最悪…。

(嘆く様に) もー最悪…。

君のせいで、こいつの世界での再スタートが~~なま~~無し…。

だつてそうじやん。

君に闇魔法が効いてれば、今頃^{いまごろ}こんな事にはなつてなかつただろう。つたりめえじやん。

こつなつてなかつたら、今頃^{いまごろ}出来た友達と自撮り見せ合つたり、カラオケ行つたり…。

思い描いてた事が、ぜーんぶ~~なま~~無し…。

だから最悪なワケ。

まあでも？

ナナつちポジティブだから？

この逆境でも樂しんじやうんだもんね♪

は？

ナナつちもM？

何言つてんの？

そんなワケねえし。

しーりーまーせーんー。

ん？

待つて。

ナナつち「も」つて言つたよな？

つまり君は、Mだつて認めたつて事でオッケー？

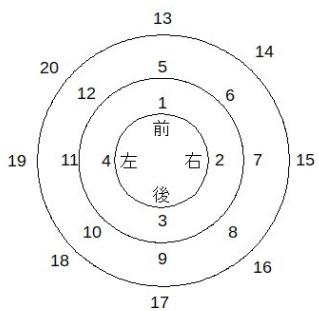
何？

ドM紳士…？

何それ…。

よく分かんねーけど、Mなんだな？

ふーん…、そつか。



じゃあヤ、ナナっちの口調とか態度とか、嫌いじゃないって事…？
は…？

好き…？

バカつ！

今日会つたばかりなのに、好きって何だよ…！
へ…？

あ…、そつちの好きじゃない…？

そつか…、そなんだ…。

つて、なんでナナっちが残念がつてんだよ…！
いけね…、ついセルフツツコツツがまつた…。

(咳払い) う、うん。

えーつと…、つまつその…、リリード君が冷静で晒されたのは、ギャルが好きって事…？
へえ…、そうなんだ…。

でもよ、ダークエルフだぞ？

あー、言わなくともいいよ。

ゲームでーつて言うんだろ？

まあそれが真実かどうかは怪しいけどな。
つたりめえじゃん。

ナナっちは君の秘密を調べて、突然止めてみせるつったる…。

君の言つてゐ事を鵜呑みにするワケにはいかねーの。

あと、調査の事、忘れててもうつちや困るんだけど…。
もしかして…、忘れてた…、とか？

うーわ、やつぱり…。

(ため息) はあ…。

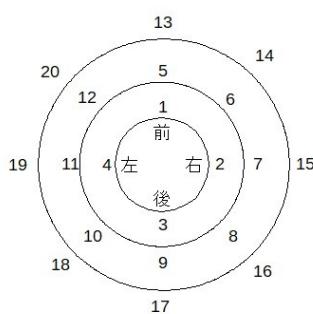
先が思ひやうれるわ…。

ほら、じつかもむづれん終わるやー。
耳にふーつてすつか。

(耳ふー) ふ…。

もーつー回…。

(耳ふー) ふ…、ふ…。



最後「」もつ 一回だ。

(耳ふー) ふつらつらつー…。

おーし、終わりつ。

起き上がつてここがー。

…。

なあ。

起き上がつてここがつてんじやん…。

なんで動かねえの?

このままがいい?

あのヤ、かんつぜんにナナつちの事、舐めてるよね…?

それこヤ、文字を書くの教えてくれるつついたじやん。

それも忘れたワケ?

もうちよつとあと…。

もうちよつとひとつだけよ。

ちあつて…。

こ…の…。

(弦く様に)

ム・カ・フ・ベー…。

でも待てよ…?

追放された身として、こんな上手い話、中々ねえんだよなー。

ここの秘密…、暴きたい…。

そうだよな。

闇魔法が効かない理由を調べるには、仲良くしといた方がいいな…。

こーは我慢…、我慢…。

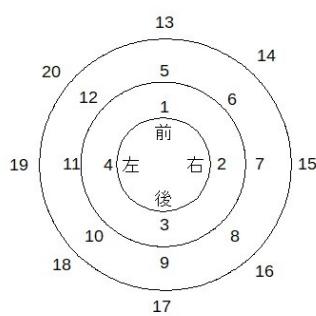
(こー)まで弦く様に(こー)

な、なあ…、君ヤ、こーのおお寝りやつてもここがー。

それと、もしよかつたら、晩メシも食べていやなよ。

何なら泊つていくか?

お…。



どうした?

急に黙っちゃつて、

もーしかーしてー、

照れてるとか?

どうなんだよー?

おーじ、

つて、もう寝てんじゃんつー、

こ・こ・こ…。

(怒りを押し殺す様に) もーつ……